

読(亮)

衆院憲法審査会での野党議員の主な発言

立憲民主党・山花郁夫	改憲案という形で憲法を出すべきではないというのが、これまで(議論の)積み上げた。案の形で出すつもりはない
立民・山尾志桜里	国民に憲法の課題や論点を知らせて、考える材料を提供する役割は議員にある
立民・近藤昭一	国民の中から憲法を変えていこうという機運があるとは思えない
国民民主党・奥野総一郎	(自民党改憲案の)4項目を前提とせず、一から積み上げの議論をやるなら応じる

※敬称略

改憲議論 野党温度差

国民意欲 立民は党案示さず

衆院憲法審

衆院憲法審査会は14日、審査会メンバーによる9月の欧州視察をテーマに、2回目の自由討議を行った。立憲民主党は独自の憲法改正案を示さない方針を表明した。共同会派を組む国民民主党は改憲議論に応じる考えで、温度差がみられた。

法調査会長)は党改憲案を示すかどうかを問われ、「出すつもりはない」と述べた。その理由として「(改憲の賛否を問う)国民投票の時に、どの党の案がベースか(分かるため)色がついてしまおう」と説明した。立民の近藤昭一氏は「国民に憲法を変えていこうという機運があるとは思えない」と述べた。

一方、立民の山尾志桜里氏は「国民に考える材料を提供する役割は議員にある」と積極的な議論を訴えた。国民は論議に応じる条件として、4項目の自民党改憲案を前提としないことを挙げた。奥野総一郎氏は「一から積み上げの議論をやるなら応じる」と意欲を示した。ただ、「急いで改憲案を作る必要があるのか」とも語った。

自民党の新藤義孝氏はドイツなどで緊急事態条項が憲法に規定されていることを取り上げ、「私たちの国の憲法に必要なものは何なのか。審査会で議論しなければいけない」と訴えた。

与党は14日の幹事会で、改憲の国民投票の利便性を高める国民投票法改正案を21日に採決する方針を提案し、野党は拒否した。

立民の山花郁夫氏(党憲